

奈良労働局では、長時間労働の削減、年次有給休暇の取得促進をはじめとした「働き方改革」の実現に向けて、川村徹宏労働局長を本部長とする「働き方改革推進本部」を設置し、県内の経済団体等・企業経営者に対して、自主的な働き方の見直し（「働き方改革」）を推進しています。また「働き方改革」の一環として、労使協調の下、年次有給休暇の計画的付与制度の導入や、土日・祝日に年次有給休暇を組み合わせる「プラスワン休暇」の実施を推進しています。

令和元年7月9日

県内企業経営者に「働き方改革」の取り組みを要請

この日は、県内の企業経営者に対する働きかけとして、川村本部長が株式会社柿の葉ずし（本社：天理市）を訪問して、平井代表取締役社長に要請書を手渡し「働き方改革」の取り組みに関する協力要請及び意見交換（懇談）を行いました。

（1）訪問企業の紹介

株式会社柿の葉ずしは、文久元年創業、天理市に本社工場を置き、「平宗」の屋号で主として柿の葉ずしの製造販売を行う企業。

人口減少社会の中で、労働者と経営者がファミリーの意識を持ち様々な事情を抱える多様な人材が活躍できる会社作りを行っている。また、労働者の生活・健康を第一に考え、法律の枠にとらわれず、時間外労働の削減、年次有給休暇の完全取得を目指し、生産性の向上等に組み組んでいる。

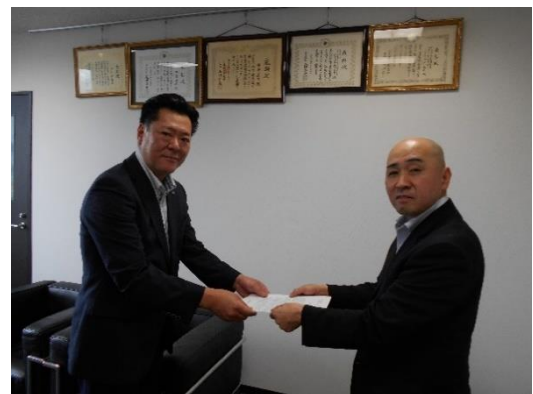


株式会社柿の葉ずし 本社工場

（2）働き方改革に関する意見・取組の内容

○【「働き方改革」について】

幼少期、朝から深夜まで休みなく店に立つ母親の姿を見て育ち、それが私にとっての「働き方」であった。しかし、令和になり人口が減少していく社会において、こういった「昭和の働き方」では事業の存続は難しいと考えている。スタッフの労働時間や労働環境を第一に考え、業種に合わせた取組を考えていきたい。

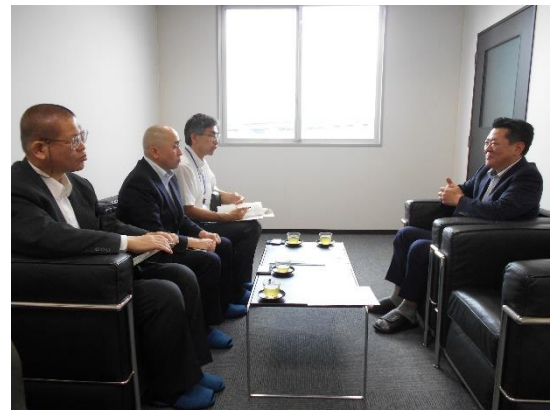


平井社長（左）に
要請書を手渡す川村本部長（右）

○【多様な人材の活用について】

当社はスタッフ総勢約190名のうちパート・アルバイトが約160名を占め、その割合が高い。その中には、時間的制約がある中で生活の糧として収入を得たい方、高齢者で社会参加的に

働きたい方、可能な限り収入を得たい外国人技能実習生など、様々な「働き方」に対する要望がある。これらの要望をパーツのように組み合わせそれぞれの方に活躍頂いている。また、生活の糧として働く方には、とりわけ熱心で優秀な方が多く、積極的に正社員への転換を進めた結果、5名の正社員転換に成功した。一方でこういった方は大阪など賃金の高いところへ移っていく傾向があるので、福利厚生面を充実させ離職につながらないように取り組んでいる。



懇談の様子

○【年次有給休暇について】

日本では有休を取ることに負い目を感じる風潮がある。私自身も有休を完全消化するスタッフと全く取らず仕事を優先させるスタッフのどちらを評価すべきか正直迷うところがある。法律で年休5日の義務化が決まった時、管理職のスタッフから「本当にこれが正しいんですか？」と質問された。「お上が決めたことやから」という返答も頭をよぎったが、私の姿勢が会社の方針になると考え「求人かけても人が集まらんやろ。有休消化できることが売りにならんやろか？」と答えた。今では社会に先駆けて有休完全消化が当たり前という状態にしたいと考えている。

○【時間外労働の削減について】

残業時間を減らすためには生産性を上げることが重要である。スタッフが共通の意識を持って取り組み、1日1時間や2時間は早く帰ることができるはずである。また、意識改革と並行して設備投資し機械化も進めている。ただし「真心こめて手作業で柿の葉を巻く」など会社方針も関係するので、意見を出すのはスタッフ、決めるのは会社と役割を分担している。



平井社長による自動ラインの説明

生産性の向上により出た利益はスタッフに還元し、この流れをどんどん循環させていくことにしている。将来的にはこの利益でスタッフ全員を海外旅行に連れて行くことが目標である。

○【人手不足問題について】

人手不足は当社でも非常に厳しい状況である。新卒の採用に取り組んでいるが、離職率をいかに下げるかも課題である。これについては、中小企業のいいところである従業員側と経営側のファミリー意識を活かし、経営側は従業員を財産と考え、スタッフ一人一人は経営に参加しているというやりがいを感じて働くことができる環境を作っていきたいと考えている。

このため私はできる限り工場・各店舗を回り一生懸命頑張っているスタッフを探し、頑張っているスタッフは昇給させている。そうすることでスタッフ全体に「会社はちゃんと見てくれている」という意識が広がり、一人一人がやりがいを感じて働いてもらえ、その結果生産性も上がるものと考えている。



工場見学の様子